

令和2年度第2回袖ヶ浦市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和3年1月27日(水) 午後3時45分開会  
午後5時15分閉会

- 2 開催場所 市役所旧館3階大会議室

- 3 出席構成員

市長	粕谷 智浩	教育長	御園 朋夫
教育長職務代理者	山口 修	教育委員	多田 正行
教育委員	高野 隆晃	教育委員	中村 伸子

(欠席構成員) なし

- 4 出席職員

教育部長	根本 博之	企画財政部長	宮嶋 亮二
福祉部長	今関 磨美	教育部次長 (兼教育総務課長)	小阪 潤一郎
企画財政部次長 (兼企画課長)	千田 和也	子育て支援課長	近藤 英明
学校教育課長	瀧澤 真	総合教育センター 一所長	小藤田 信明
学校教育課副参事	磯部 正史	教育総務課副参事	竹川 義治
教育総務課班長	君塚 和枝		

- 5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

- 6 次第

1 開会

2 市長あいさつ

3 議題

(1) 市立幼児教育・保育施設の今後のあり方検討にかかる現状と課題について

(2) 第三期袖ヶ浦市教育ビジョン策定に係る袖ヶ浦市教育大綱(案)について

(3) G I G Aスクール構想の進捗状況について

(4) その他

#### 4 閉会

### 7 議 事

#### 1 開会

(教育部長)

ただ今から令和2年度第2回袖ヶ浦市総合教育会議を開会いたします。

会議の事務局につきましては、地方自治法第180条の2の規定により、教育委員会が補助執行することとしておりますので、進行は私、根本が務めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。なお、総合教育会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定により、原則公開となっておりますが、本日、傍聴人はございません。

それでは、次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。まず、はじめに、粕谷市長よりご挨拶をお願いいたします。

#### 2 市長あいさつ

(市長)

教育委員の皆様には、日頃から本市の教育の充実発展にご尽力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、皆様もご承知のとおり、昨年からの新型コロナウイルス感染症が全国各地に拡大を続けており、1月8日から2度目の緊急事態宣言が発令されています。市民生活や地域経済、子ども達を含む教育分野においても多大な影響を及ぼしており、本市におきましても本日4名の感染が確認されております。現在、新規感染者は減少傾向にありますが、療養者数は君津保健所管内において10万人あたり77人を超えており、医療機関も逼迫している状況です。市民の皆様におかれましては、感染拡大防止のための様々な取組にご協力いただいているところです。

昨年は、本市のまちづくりの指針である「袖ヶ浦市総合計画」がスタートいたしました。市が目指す将来の姿である「みんなでつくる 人つどい 緑かがやく 安心のまち 袖ヶ浦」の実現に向けた総合的な施策展開を図っているところです。

本市は、本年4月に市政施行30周年を迎えます。これまで、将来の発展を見据え、各分野において様々なまちづくりを進めてまいりました。この30年という節目に市民一人一人がこれまでの歴史を振り返り、まちの魅力を再確認し、未来のまちづくりについて考えていただく機会にしたいと思っております。

教育委員会においては、令和3年度から10年間を計画期間とする「第三期袖ヶ浦市教育ビジョン」がスタートいたします。学校教育では、今後も様々に変化していく社会の中で力強く未来を切り拓いていく「生きる力」と人としての優しさを兼ね備えた「心の豊かさ」を育てていくこと、また、人生100年時代を迎え、市民が生涯にわたって学び、考えて判断し、その成果を生かすことができる社会の実現を目指していきたいと考えており

ます。本日の会議では、この計画案をもとに本市の教育のあり方について改めて協議し、新たな袖ヶ浦市教育大綱について審議させていただき予定としています。また、福祉部が事務局となって庁内で協議を進めている「市立幼児教育・保育施設の今後のあり方検討にかかる現状と課題について」の報告も議題としております。

本日は、このような議題について協議しながら、今後とも教育委員会と市長部局が共通認識をもち、互いに連携して取り組んでまいりたいと存じますので、教育委員の皆様から  
きたん  
忌憚のないご意見をいただけますようお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。

(教育部長)

ありがとうございました。

### 3 議題

(教育部長)

それでは、議題（１）市立幼児教育・保育施設の今後のあり方検討にかかる現状と課題について事務局より説明をお願いいたします。

(子育て支援課長)

資料は、議題（１）資料と記載のある別冊資料となります。

まず、本編説明にかかる背景について説明させていただきます。市では総合計画に掲げております子育て・教育分野の施策の方向性として、幼児教育、保育サービスの充実を掲げ、質の高い幼児教育、保育の提供、また子ども達が安全な環境の下で安心して過ごせる場所の提供などを目指しております。その具体的な取組としまして、第1期実施計画におきまして平川地区幼保連携推進事業を掲げ、平川地区における幼児教育・保育施設のあり方について検討し、その検討結果を踏まえて整備を推進するとしたところです。しかしながらこの事業を推進するにあたり、平川地区だけでなく市内全域での幼児教育・保育施設のあり方を検討し、方針としてまとめることが必要であると考え、庁内で検討委員会を立ち上げ、福祉部長を委員長とし、保育所を所管する福祉部局、幼稚園を所管する教育委員会、企画財政部や総務部などの関係部課において検討を進めているところです。これまでの検討状況といたしまして、現状と課題について検討委員会の主管課である子育て支援課から説明いたします。

方針策定の背景については、平成28年3月に「袖ヶ浦市の幼児教育・保育の取組みについて」を策定し各種施策を推進してきました。しかしながら、市の幼保施設の老朽化が懸念され、財政状況も非常に厳しくなっている中で、将来にわたって幼児教育・保育サービスの提供を維持するため、施設のあり方の方針を策定しようとするものです。これらについては、市の総合計画や第7次行政改革大綱でも示しているところです。

幼児教育・保育の現状についてですが、市内には3つの幼稚園と16の保育施設、1つの認定こども園があります。本市の未就学児童数は増加を続けており、保育所では待機児

童が発生していることから、現在も民間事業者による保育施設整備を進めているところです。市立幼稚園・保育所においては、昭和50年代に建設されたものが多く、安全性への懸念があります。

次に本市の人口及び財政状況ですが、本市の人口は増加を続けているものの、将来的には減少に転じるものと推計しています。また財政状況については、財政力が低下している中で、毎年度の経常的な収入に対する支出の割合を示す経常収支比率が上昇しており、新規事業に投資できる財源が極めて少ない状況となっています。

幼児教育・保育施設に関する課題ですが、市全体の課題としまして公立保育所における保育士不足や施設の老朽化、幼稚園児童数の低下等があげられます。また、臨海部の喫緊の課題としまして、昭和・長浦地区では待機児童の解消、根形・平川地区では地域子育て支援拠点の整備や、人口動向を見据えた施設の検討等となっております。なお、資料にあるこれらの課題につきましては、現段階では暫定的に取りまとめた段階であり、今後様々なご意見をいただきながら表現等の修正が必要であると認識しております。

最後に今後の課題の進め方ですが、これまで説明させていただいた現状と課題を精査した上で、市立幼保施設にかかる基本的な考え方を取りまとめ、来年度末頃には今後のあり方に関する方針を策定していきたいと考えています。全体の方針がまとまりました時には具体的な地区別整備計画を策定していくこととなりますが、これについては実施計画に基づいて平川地区から策定していきたいと考えております。

本日は市立幼保施設のあり方、また平川地区の整備計画の検討にあたりまして中川幼稚園をどのように位置付けていくか考えていく必要がありますので、庁内で検討を開始した内容について教育委員の皆様にも説明させていただきました。今後、教育委員の皆様をはじめ、子ども・子育て支援会議の方々、また幼稚園、保育所の現場職員などから様々な意見を頂戴しながら具体的な検討を進めていきたいと考えています。説明は以上です。

(教育部長)

内容についてご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

(高野委員)

資料を拝見すると、保育所入所待ち、待機児童数が増えています。聞くところによると、中川幼稚園に行きたくても2年保育だから無理という方もいます。今、私立幼稚園は3年保育や満3才で受入れを行い、保育所と同じように延長保育を行うのが当たり前という状況になっています。市立幼稚園はずっと2年保育になっているためニーズにできていないという現状があるので、私立幼稚園が行っていることを参考にして根本的に3年保育を認める検討をしていくと良いと思います。

もう一つ、幼稚園・保育所の職員不足の件については、私どもの地区でも同じような問題を抱えています。原因として保育士等の給与が少ないことがあげられると思います。幕張地区で就職の説明会を行っても、千葉市や船橋市等の幼稚園、保育所を希望する人は多いが、房総地域は待遇面で見向きもされないという現状があるようです。やはり給与面を改善するか、声掛け等により保育士を増やしていくことが喫緊の問題だと思います。そうでないと待機児童はなかなか改善されないと思いますので、そういったことを検討しては

しいです。

(学校教育課長)

中川幼稚園のあり方につきましては、先程説明のありましたあり方検討委員会で現在話し合っています。実際、今井幼稚園と統合した関係で入園児数は減少しています。また、無償化が始まったことにより、3才児から幼稚園に入園させたいというニーズが高まっていると聞いていますので、中川幼稚園においては3年保育を積極的に考えることを検討しているところです。また、時間外保育等につきましては、幼稚園から認定こども園に移行していき、時間外保育等を行っていくという可能性もありますので、その件についても検討を進めているところです。

(福祉部長)

保育園の関係ですが、保育士の処遇改善といたしまして、市から私立保育園の保育士に対して1ヶ月あたり2万円の補助を行っています。また、それ以外で保育士の事務負担の軽減としてICT化を進める場合の補助を行っております。先程教育委員からも意見をいただいたように、全国的に保育士不足が問題となっておりますが、現在市の取組といたしまして、県から資格を持っているが働いていない潜在保育士名簿の情報提供をいただき、そういう方々に声掛けをしたり、保育の専門学校に対して袖ヶ浦市の募集を行ったり、一人でも多くの方に袖ヶ浦市で働いていただくように取組を行っているところです。

(教育長職務代理者)

今、子育てが孤立化する傾向にあり、親が子どもを殺してしまった、乳幼児を殴ってしまった等の事件もあり、世の中が大変なことになっていると感じています。そういった孤立した親をどこで受け止めるのか、保育所が地域の拠点としてそういった問題に取り組み、若い母親が保育所に来て子育てのプロである保育士に相談できるような環境、保育所の機能をもう一度見直していただきたいと思います。例えば、保育所に通わない子ども達も保育所に遊びに来て母親が悩みを相談したり、子育てについての知識を教えたり、保育の提供のみではなく、もう一步踏み込んだ取組が必要だと思います。待機児童だけにこだわらないようにしていただきたいです。それは、保育所のみでなく関係する施設全体の総合的な見直しとして考えてほしいです。そういった取組を方針の骨子の中に入れていただきたいと思います。

(子育て支援課長)

地域子育て支援拠点の整備については、これまでも私立保育所等において進めているところです。今回内陸部の課題としてもあげていますが、整備が市の臨海部に集中して進められているという状況がありますので、内陸部にもそういった地域子育て支援拠点の整備を進めていく必要があると考えています。そこで、これらも含めた施設整備の考え方をまとめていく必要があります。また、さらに踏み込んでいった場合には、児童虐待という点からは、現在国からも示されている地域子育て支援拠点の整備を進めていくことが求められております。そういう様々な取組を進めていくことにより、簡単な相談から重要な案件の調

査の対応まで幅広く対応できる組織づくりに取り組んでいくことを考えております。

(教育長職務代理者)

また、外国の方が増えて保育所に来ることもあると思いますが、言葉の問題や対応について教えてください。

(福祉部長)

今年度、私立の保育施設で外国のお子さんがいて通訳機を購入したいという相談がありました。市ではそういった補助も行っております。やはり外国の方が転入されるケースが以前より増えてきており、担当の保育士だけが抱えるのではなく、保育施設全体でどういった対応をしていくのか、職場内研修をして取り組んでいるという話を聞いております。

(教育長職務代理者)

職員の意識も高めながら、全員が同じ方向を向いて取り組んでほしいと思います。

(市長)

残念ながら現在、待機児童がいる状況であります。特に共働きの保護者の方々は大変な思いをしておられるので、その辺はしっかり対応していかなければならないと考えています。保育が生活の支えになっておられますので、力を入れて取り組み、また質の面でも、特にコロナ禍においてはどこに相談したらよいかわからない方もいらっしゃると思いますので、しっかりした対応をしていきたいと思います。また、外国籍の皆様も日本の義務教育を受けられる方が増えてきていると感じています。直接子ども達と対応していただくのは、現場の保育士や幼稚園の先生方になります。しっかりとした方針を示しながら対応していきたいと考えております。

(多田委員)

人口推計を見ると、今後減少していく傾向にあります。自然が豊かであったり、立地がよい点など、いかに袖ヶ浦市が住み良い場所であるか、袖ヶ浦市の魅力をもっと外に発信していただきたいです。また、根形地区や平岡地区の広大な農地の土地利用も検討してほしいです。

(市長)

袖ヶ浦市の魅力を発信していくことは重要なことだと感じています。現在、袖ヶ浦市に帰ってきていただく方が増えている状況です。今年度は横浜駅と東京駅の自由通路にデジタルサイネージを使って袖ヶ浦市のPRをしています。特に子育て世代に子育てをする場所、教育を受ける場所として住みやすいまち袖ヶ浦としてPRを行っています。また、袖ヶ浦市で活躍している方々をアンバサダーとして取材して市ホームページ等で発信し、市外の方にも袖ヶ浦市を知っていただくという取組をしています。全国的に見て人口が減少している中で、袖ヶ浦市は今まで様々な施策を進め、現在人口は増加しており、まもなく65,000人になろうとしています。袖ヶ浦市総合計画の中で、人口65,000人を維持してい

く方向を示しています。まちづくりや子育て、教育などPRしながら、比較された時にキラッと光るものがある、魅力のあるまちにしたいと考えています。教育委員の皆様にも何かあれば情報等をいただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

(高野委員)

市全体の課題で、財政の硬直化が進む中で施設の更新に必要な経費が確保できない恐れがあるとありますが、子ども達には地元から通える場所に進学、就職し、地元で結婚して子どもを育ててほしいと考えています。そのためには財政が厳しい中でも積極的に設備投資できる環境を整えてほしいと思います。

(市長)

資料にもありますように、財政的には厳しい状況にあります。コロナの影響で令和3年度は新規事業に投資できる財源が少ない状況になっております。その中で進めるべきものはしっかりと進めていく、今までも様々な分野において施策を進めてまいりましたが、地域の子子ども達が巣立ち、また袖ヶ浦市に住みたいと思ってもらえるようなまちづくりをしていきたいと考えています。

(山口教育長職務代理者)

先日、市原市の広報を道の駅で見つけましたが、冊子で作られていました。市原市長が市原市内のゴルフ場に出向いたプロモーションもありました。袖ヶ浦市も、もっとプロモーションに力を入れてお金をかけるにはかけていく、また、もっと新千葉新聞の記事にも掲載してもらえるようにPRした方が良いと思います。

(市長)

市原市の広報は、様々な取組をされていると思います。袖ヶ浦市の広報については、昭和30年代から長い歴史を持って取り組んでいます。伝えていくべきものは伝えていくとともにプロモーションも充実させていきたいと思います。私も去年は自転車で市内の観光地を廻るという取り組みをしました。そういう意味でも市の魅力を発信し、広報についてもしっかりと考えていきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

(中村委員)

先程、幼稚園・保育所の職員の確保についての話題がありました。子ども達が義務教育へスムーズに移行できる形にしていくことが重要だと思います。袖ヶ浦市で働きたいと感じてもらえるような、魅力あるまちづくりをしていくことが、その職員の確保にもつながっていくのだと思います。

(教育部長)

では、議題(1)市立幼児教育・保育施設の今後のあり方検討にかかる現状と課

題について終了いたします。

次に、議題（２）第三期袖ヶ浦市教育ビジョン策定に係る袖ヶ浦市教育大綱（案）について事務局より説明をお願いいたします。

（教育部次長 兼教育総務課長）

それでは、第三期袖ヶ浦市教育ビジョン策定に係る袖ヶ浦市教育大綱（案）について説明いたします。

第三期袖ヶ浦市教育ビジョンの基本目標『未来を創る 心豊かで いきいきとした 人づくり』につきましては、第二期教育ビジョンの基本目標を軸に、第三期教育ビジョン策定にかかる市民意識調査や市民意見交換会等で「あたたかさ」が本市の教育のあるべき姿としてふさわしいという意見が多くありましたので、あたたかさの意味合いの含まれる心豊かを継承し、これからの社会環境の複雑化に対応して『未来を創る 心豊かで いきいきとした 人づくり』といたしました。

この基本目標を実現するための４つの目標として、一つ目【子ども】については、心豊かなたくましい子どもの育成を支援します、二つ目【生涯学習】については、人生１００年時代に向け、誰もが輝ける学びを支援します、三つ目【スポーツ】については、ライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション環境の充実を促進します、四つ目【文化財・文化芸術】については、文化財に親しみ、文化芸術を楽しむ場を創造します、と定めるところです。

資料２ページからは、先程説明させていただいた基本目標及び基本目標を実現させるための４つの目標に対応した施策体系となっております。本大綱（案）につきましては、第三期袖ヶ浦市教育ビジョン（案）の２３～２６ページの「第３章 目指す教育の姿」の部分を位置づける形にしたところですので。これについては、第二期教育ビジョンでも同様の策定をしております。また、３０ページの「今後５年間を通じて取り組む施策（前期計画）」についてですが、大綱（案）で示している基本目標を実現するための４つの目標ごとに施策の方向性、施策についての具体的な取組を示しております。５６ページの「教育ビジョンの推進と進行管理」についてですが、大綱（案）に定める目標を実現させるための推進と進行管理になります。毎年度教育基本方針及び目標を定めまして、この内容に基づき、各課等経営方針をまとめていきます。令和３年度の教育基本方針及び目標につきましては、３月の教育委員会議会で示していきたいと考えています。さらに毎年、年度終了後の点検と評価への反映を行っていきます。この内容については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２６条に規定する教育委員会の点検と評価として教育委員の皆様にご審議いただいた後、報告書としてまとめ市議会に提出し、市民の皆様にも公表いたします。

この教育大綱及び教育ビジョンの推進にあたりましては、教育基本法や国や県の教育基本振興計画、本市の総合計画を根底に据えながら、教育を取り巻く環境の変化を注視いたしまして先進事例の研究、点検評価を行いながら課題に対応してまいりたいと考えております。説明は以上です。

（教育部長）

内容について、ご質問、ご意見等があればお願いいたします。

(高野委員)

大綱(案)4ページの基本目標について、力強く未来を切り拓いていく「創造力」となっていますが、「生きる力」としたほうが良いと思います

(教育部次長 兼教育総務課長)

コロナ禍の中で未来を切り拓いていくという意味で「創造力」としましたが、他の部分と併せて「生きる力」という表現に統一させていただきたいと思います。

(教育部長)

では、議題(3)GIGAスクール構想の進捗状況についての説明を先に進め、後ほど併せてご意見等を頂戴したいと思います。

次に、議題(3)GIGAスクール構想の進捗状況について事務局より説明をお願いいたします。

(学校教育課長)

私の方からは、ICT環境整備(タブレット)について説明させていただきます。GIGAスクール構想のタブレット一人一台整備の経緯につきましては、新学習指導要領におきまして情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力の一つと位置付けられ、そのために必要な環境を整えるように明記されました。また、国によって示されたGIGAスクール構想においては、児童生徒一人一台の端末と高速通信ネットワークを整備して、多様な子ども達に対し教育を行うこととされています。学校には様々な子ども達がいるわけですが、子ども達一人一人に合った学びを行っていくことが目的となっており、そのためのツールとして導入しようとするものです。このタブレットの導入状況ですが、現在契約を終えて5,610台が学校に納入されており、各教室にタブレットを格納するキャビネットを設置し、その中にすでにタブレットを収納した状態になっています。まだソフト等はありませんので、この後セキュリティソフトや活用していくソフトを入れ、3月10日を目途にその作業が完了する予定です。その後教職員研修等を行い4月当初から使用できるように計画的に進めております。購入するタブレットについては、インターネットに繋がってなくても使えるようにウインドウズタブレットとします。

また、導入するソフトについては、オフィス365とミライシードとします。ミライシードは創造学習、一斉学習、個別学習に対応したタブレット用ソフトになります。こちらをメインに各学校でいろいろと工夫して使うようにしてもらいたいと思います。具体的な場面としては、自分の能力に合ったドリル学習に取り組んだり、インターネットを通して調べ学習を進める等、まずは使ってみることから始めていきます。まずは学校に来たら机上に出し電源を入れ、いつでも使える環境にしたいと考えています。そして先生方には、子ども達に伝えることによって様々な使い方を開発して、それを第一段階として広めてほしいと思っています。その際には、いろいろなトラブルや質問等もあると思われるので、ICT支援員等を活用して取り組んでいきたいと考えています。GIGAスクールタブレットにつきましては、今回購入したもので当面は足りる予定ですが、令和4年度以降の生

徒の増加が大きく、後に不足が見込まれます。それを今年度中に購入すればG I G Aスクールパッケージの特価で購入が可能になるため、200台を追加購入する予定としています。併せて5,800台を用意し、多い分は急な故障等にも対応できるようにと考えています。導入状況等は以上です。

(総合教育センター所長)

続きましてLAN整備工事の進捗状況について説明させていただきます。  
総合教育センターにおいて、タブレットの機能が最大限に活用できるように小中学校無線LANの整備工事を行い、高速大容量の通信ネットワークを完備するよう進めております。総事業費は158,400千円で国庫補助金の交付も受けています。契約業者は(株)大崎コンピューターエンジニアリングとなっております。

工事の概要については大きく二つで、一つ目は無線LAN工事で、現在も既設のネットワークがありますが、情報量を支えるために6Aというカテゴリーの回線を学校に引いております。これは子ども達が使う部分の学習系の回線になります。また、学校内の様々な場所で無線LANを使えるように体育館や武道場等も含めて子ども達が授業を行う場所、市内計345教室にアクセスポイントを設置しております。二つ目は電源キャビネット、タブレットを使用後に充電したり保管するキャビネットになります。電源キャビネットは、教室を中心に181台設置しています。子ども達は日中活動しますので夜間に順番に充電できるように準備を進めております。

次に工事の進捗状況になりますが、令和2年8月17日に工事を開始し、令和3年1月20日に建設技術監査センターの工事監査を終了しております。監査では大きな指摘はありませんでした。

最後に、本工事に付随する環境整備ですが、市内全体で21回線の光回線を新規で開通させる必要があります。その工事を2月末完了で進めております。また、その光回線を開通させた後に安全に運用するため、セキュリティを高めるものとしてファイアウォールの設置工事を3月10日完了で進めております。この二つの工事完了後は、各学校で試験を実施し、職員の研修等準備を行っていく予定としております。説明は以上です。

(教育部長)

では、先程の第三期袖ヶ浦市教育ビジョン策定に係る袖ヶ浦市教育大綱(案)についてを含めご意見等がありましたらお願いいたします。

(中村委員)

無線LANを繋いで工事を進められているということですが、今後学校全体で全員が一斉に使用した場合でも耐えられる状況になっていますか。

(総合教育センター所長)

子ども達が使うミライシードというソフトがあります。そのソフトは全員が使っても可能という計算になっていますが、最大にすると費用がかかりますので、ある程度使用量を

予測して契約しております。学校も児童生徒数の差があるので、学校ごとに回線の量を変えて均等に使用できる状態で準備しております。

(中村委員)

学習ソフトだけでなく、今後いろいろな使い方がされ、学校で一斉に何か取り組むことも出てくると思いますが、そういった点での対応は可能でしょうか。

(総合教育センター所長)

これから試験をして我々も実際に対応していきます。今までどうしても机上の計算により計画していることですので、何か不具合が起こる可能性はあります。万が一不具合が起こった場合には次年度はすぐ対応できるようにと考えております。今までの契約業者の経験や計算によりスムーズに進められる可能性の高い方法で契約しております。

(山口教育長職務代理者)

これは、国の狙いは何でしょうか。コロナ禍であるのでそれに対応できる教育を目的としているのでしょうか。タブレットは持ち帰りができるのでセキュリティについても問題になると思います。人のパスワードを使って使用することも可能になってしまうので、セキュリティの管理もきちんと考えていかないと危険だと思います。また、現場の先生方は管理することと教えることの両方をやらなければならないので負担がかなり大きいと思います。うまく使うことができれば革命であり、そうでなければ現場の負担が大きくなってしまいます。これは先生方が対面で教えるのではなく、あまり規制をかけずに子ども達に自由に使わせる、狙いを明確にして、今の子ども達は使いながら覚えていくのでそれをうまくコントロールしていく形が良いと思います。現場で研修を重ね、事例を出しながら少しずつ進めてほしいです。また、先生方の負担もかなり大きくなるので、メンタル面や現場をサポートする体制が必要だと思います。外国ではオンライン授業が主流となっていてるところが多いようですが、オンラインで物事を教えることが全てではなく、学校に集まり集団の中で人との付き合いや様々なことを学んでいくことが教育であり、人格の形成が重要です。教育基本法の原点に戻って一步一步進めていかなければならないと思います。

(学校教育課長)

GIGAスクールの当初の狙いとしては、一人一人に合った教育を目指していくということで理解しています。そのような中でコロナ禍になり、オンラインでも有効活用できるのではないかということで、コミュニケーションツールや遠隔教育という可能性も出てきたところです。あくまでもメインは個別最適化の教育を目指していくことでありますが、あまり難しい要求をしてしまうと先生方も苦しくなってしまうので、子どもには自由に工夫して使ってもらいながら、先生方にもまず使ってもらって徐々に進めていきたいと考えています。いかにバックアップができるかになります。ICT教員が2人に増員になりましたが、5000台以上見なければいけないのでなかなか手が回らない状況になると予想されます。教育委員会にも担当職員がおりますが、他の業務もありますので厳しい状況になると思いますが、焦らずにじっくり取り組んでいきたいと考えております。そうした

中で、ICTが得意な教員がいて先進的な取組をしている学校から無理なくスキルを広めていくことを考えております。こんなことができる、こんないい点があるということを広めることで教員のモチベーションも高めていくことができると思います。

セキュリティに関しては、自宅に持ち帰ってほしいですがそれに対応できるソフトがかなり高額であり、予算面の問題があります。ただ、インターネットに繋がらなくても持ち帰って使うことは可能なので、各家庭にこんな学習をしているという周知もできると考えております。

#### (市長)

私は、市長選の時に教育分野の施策の一つとしてタブレット端末の整備に力を入れていくことを挙げさせていただきました。その後、国からGIGAスクールという大きな構想が出され、一括導入に至ったところです。山口教育長職務代理者が話された心配事はごもつとも、第一に考えていかなければならないと感じています。現場の混乱は予想できることであり、先生方の負担も大きくなる可能性があります。

私自身は、今子ども達がこれから巣立っていく過程でICT機器の使い方を習得していくことは避けて通れない道だと思っています。ごく当たり前のツールであると認識しており、都内の学校でも積極的に導入されている中、袖ヶ浦市においても魅力あるまちづくり、教育に力を入れていくという意味でとても期待しております。導入されるミライシードは採点業務等も可能であるので、逆に先生方の業務も減るのではないかと考えています。よその学校の子どもや外国の子どもとも交流ができ、コミュニケーションツールとしても活用できるなど様々な可能性があります。また、紙で書くことは重要な教育ではありますが、例えば学校からの紙の配布物が減らないかと考えています。学校からのおたより等の配布物は、先生方は時間をかけて作っていただいていると思いますが、タブレットでワンクリックで保護者が見ることができれば紛失もなくなり、到達性も高く、先生方が印刷して配布する手間も省くことができます。今までとは違う機器を導入することでそういった魅力も出てくるのではないかと考えていますので、様々な取組を期待しております。

#### (高野委員)

現在、小学三年生でもスマホ保持率が高いということです。個人的には学習面だけのタブレットの使用になるのが望ましいということと、家庭によってはICT機器を拒否する保護者もいると思うので、その辺の理解をしてもらうことが必要だと思います。また、今は紙の資料でしか情報がないので、私達教育委員もできれば実践したり、現場を見たいと思います。4月から導入するということなので、教育長訪問でしっかり見させていただき、その時点での問題点等を確認させていただきたいです。

もう一つは、教育ビジョンでも出ていましたが、年輩の教員が退職して若い教員が増えている中で質の向上が求められているとありましたが、若い教員が大学の教育学部では理想に燃えていても、現実には事務的なことに追われ保護者への対応が厳しいなど現実とのギャップがあるようです。授業等の改善よりも、授業に取り組める環境を与え、やる気があり魅力のある授業のできる先生を育ててほしいと思います。授業というのは子どもの頃につまらないと感じるとずっとつまらないと思うので、先生方が教員を目指した思いが伝わ

る授業ができるように、先輩の教員が手助けしてメンタル面でもサポートしていただきたいと思います。

(多田委員)

子ども達の近視が進んでいることが気になります。これから、子ども達が近距離で四六時中画面を見るという状態になります。健康面についてもきちんと指導してほしいと思います。

(学校教育課長)

タブレットはツールの一つであって全てではないと考えています。特に小学生においては手を使って字を書き、ものによっては紙の本を読み、見極めて学習していく必要があり、その中でどの程度タブレットを使わせるのか、使い過ぎは良くないなどのルールを作っていくことも考えています。ネット依存やゲーム依存などの面も含めて取り組んでいきたいと考えています。

(教育長)

タブレット導入については、一長一短であると感じています。

現場においては、年輩の教員にいきなりやってもらうと負担が大きく、退職を考えてしまう人も出てしまうのではないかと危惧しています。コロナ禍でこういった形で進めていくかを慌てずに考えていかなければならない中で、そのために研究指定校を作り、そこをたたき台にして取り組んでいく予定であります。

これからタブレットは絶対に必要であり、GIGAスクール構想が出る前から考えはありました。この機会を有効活用していきたいのと同時に、鉛筆を持つ時間が減ることや本との関係などいろいろな課題もあります。こういった課題も踏まえながら、その課題が出るのが大きな成果であり、それをどう改善していくかということがこれからのテーマになっていくのではないかと思います。これから未知の世界に対応していくという気持ちでいます。タブレットに触ったことのない教員にも触ってもらい、そういった人にも自信を持って使わせるような研修を進めていく予定です。4月に全て使うのは無理だと思うので、押し付けてはいけないと考えています。そういった考えで焦らずに進めていきたいと思っていますのでよろしく願いいたします。

(中村委員)

様々な課題もありつつ、大きな可能性も秘めていると感じました。これから進めていくにあたって、とても大きな構想なので工夫しないとスムーズにはいかないと思います。学校教育課や総合教育センターの担当職員のみなさんは準備だけで大変なご苦労があったと思います。今後担当職員の方達にはコーディネーター的な役割を担っていただいて、各学校から知識のあるICTの得意な教職員が集まって取り組む、ICTの推進委員会や研究部会のような組織づくりも必要ではないでしょうか。そういった組織で研究していくことで、また可能性も広がっていくと思いますので、検討していただきたいです。

(学校教育課長)

我々教員は、それぞれの専門分野で研究部会を作っていて、その中に情報教育部会もあります。情報教育部会は現在、少人数であります但自分達が協力できることがあれば研究したいと言っていますので、GIGAスクール構想がもっと話題になれば会員も増えるかもしれませんし、そういったメンバーとも協力していけたらと考えています。

(総合教育センター所長)

総合教育センターで令和3年度にICT支援員を1人増の予定です。現在は1人でプログラミング教育やモラル教育で年間120～130日指導に出向している状況です。2人になりますので、初年度は効果的な活用まで可能になるかわかりませんが、努力していきたいと考えています。

(高野委員)

先程、話のあった近視について先日のNHK特集でも放映されていきました。情報教育を進めていく中で健康についての指導も必要であり、生涯学習にもつながっていくと思います。市民三学大学講座や健康推進課などと連携して注意を呼びかけ、意識を高めていくと良いと思います。

資料の第三期袖ヶ浦市教育ビジョン(案)について、読んでいくといろいろなことがわかりましたが、抽象的な表現が多く理念だけで終わってしまうのではないかと感じました。また、スポーツツーリズムの推進の部分で「野球、サッカー等」とありますが、今はいろいろな公式戦があります。バスケット、バレーボール、ラグビーなど今はいろいろなスポーツに取り組んでいますので、野球とサッカーにこだわらないでほしいです。

最後に、全体的に財政が厳しいという話が多いですが、年度計画を立てていつまでにこうしたいと示さないと最終的に予算がないからできないという形で終わってしまうと思います。市長の理念を生かすためにも、計画を立てて投資できるところをアピールして進めていただきたいです。

(教育部次長 兼教育総務課長)

教育ビジョン全般について理念的な表現が多いというご意見ですが、資料の第三期袖ヶ浦市教育ビジョン(案)の56ページになりますが、教育ビジョンの推進と管理ということで、教育委員会においては年度ごとに施策に基づく細かい事業目標を立てています。令和3年度の事業目標については3月の教育委員会議で示していく予定としています。さらに毎年、前年度の点検をしながら評価を行っていますので、そちらの審議も依頼する予定でありますのでよろしくお願いいたします。

(山口教育長職務代理者)

教育基本法第1条、教育の目的「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」をもう一度確認していただきたい。

(教育部長)

では、(3) G I G Aスクール構想の進捗状況について終了いたします。  
議題(4) その他ですが、事務局から何かありますか。

<特になし>

#### 4 閉会

(教育部長)

本日の議題は全て終了いたしました。最後に市長から一言お願いいたします。

(市長)

本日は、総合教育会議ということで皆様には貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

現在、コロナ禍にあり今までにはない状況の中で教育を進めており、皆様には多大なるご協力をいただいておりますことに改めて感謝いたします。緊急事態宣言により公共施設も閉館させていただいており、先生方も子ども達も大きなプレッシャーの中で日々過ごされているのではないかと思います。一日も早くコロナ禍の状態を収めていくことが重要だと感じています。また、報道もされておりますがワクチン接種に向けて前進しているところです。感染対策をしながらしっかり進めていきたいと考えていますので、今後ともご意見等をよろしくお願いいたします。本日はお疲れ様でした。

(教育部長)

これをもちまして、令和2年度第2回袖ヶ浦市総合教育会議を閉会といたします。  
長時間にわたり、ありがとうございました。

以上